

北海通
道
大
部
八
田
三
郎

和

必


親

廣





大阪市西區南堀江通壹丁目

鋼商  勝本忠兵衛商店

電話番號 西(國)一七六二番

發電署號 (カツ)又ハ(カ)

振替口座 大阪四五〇五八番

取引銀行 株式加島銀行南支店

大正


月十九日

高子紅子姓娠一

十三日芽出証五月

骨化子安神

小於此山書之

點申上庚久之

報告占申志

十月十五日

騰幸志

八田大兒

傳史

戯は提へり

あさるは是をなすは

少生一果の肉野に至し

若見初め并以氏に提り

のの紙唐とて娘あし長

心銘所は、明十六日

従公名之、少生とて句讀

欠部は、一少之とて一

略落と押ぬ、一の句

一少之為は、是の句

此初より出社部、部

何可、何處、何社、何

不潔、分子あり、冬、方

を攪亂、初、唐、の、實

1. 可成居の利火

不潔分子あり冬は

を攪乳器居るに實

苦々しきり、牛乳

即ち葉が葉の間に造

るべく間に若き排

除の乾色々の年毎と

議下居るに實、物

酸の葉若木定一

驚と咲はるるに

少生今迄の進退

實と予定の行動

初を軽微なる感

幸の蛋白が出た

師も劇務に就く

實に...
初に輕微なる感冒

幸に蛋白が出た

師も劇務に就く

子と少麻禁せられた

云ふは實の下に少麻禁

此と稱退利したる故

身前後の所書詳細

一ヶ月の初失したる

先月三十日今に病

神々呻吟の、人食すの

時々起き出で聲若湯

とありありしめ其あし

隨ふ所自に是居る

法に敵と期しとせ

とていふにふしめあつたし

随ふ所自る是居る

法に敵と期ししを

味方と期すむら

策謀の平作加取以て申

以てあな取割銀行の

金銀運送し日日見舞

と申られ店員と心配

即ち号れ今更徳之

も公一心盤と茫々乎

とて妙なりと大福人り

しと装ふつらを但し

血色を馬麻によりの

多し関口秘伝は匠之

おんお福人を頼り居るを

おんお福人を頼り居るを

多し、因口秘伝は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、
百一、
百二、
百三、
百四、
百五、
百六、
百七、
百八、
百九、
百十、
百十一、
百十二、
百十三、
百十四、
百十五、
百十六、
百十七、
百十八、
百十九、
百二十、
百二十一、
百二十二、
百二十三、
百二十四、
百二十五、
百二十六、
百二十七、
百二十八、
百二十九、
百三十、
百三十一、
百三十二、
百三十三、
百三十四、
百三十五、
百三十六、
百三十七、
百三十八、
百三十九、
百四十、
百四十一、
百四十二、
百四十三、
百四十四、
百四十五、
百四十六、
百四十七、
百四十八、
百四十九、
百五十、
百五十一、
百五十二、
百五十三、
百五十四、
百五十五、
百五十六、
百五十七、
百五十八、
百五十九、
百六十、
百六十一、
百六十二、
百六十三、
百六十四、
百六十五、
百六十六、
百六十七、
百六十八、
百六十九、
百七十、
百七十一、
百七十二、
百七十三、
百七十四、
百七十五、
百七十六、
百七十七、
百七十八、
百七十九、
百八十、
百八十一、
百八十二、
百八十三、
百八十四、
百八十五、
百八十六、
百八十七、
百八十八、
百八十九、
百九十、
百九十一、
百九十二、
百九十三、
百九十四、
百九十五、
百九十六、
百九十七、
百九十八、
百九十九、
百十、

あんなに福人を頼るに
居るは

安んじたいと申し、
果ては

陰を形式に診察する

と云ふ在極極言も、
是

と云ふ水を徹底的に

詰り、今更の極言、
作者の

人氣若き何と云ふは

鼎坊一人の極言、
一

切一級、
若き

是知たらぬ、
鳥居を

透かした、
一寸皮肉

と云ふ、
最数りの、
内

柳井、
盤を、
刺り、
世の

流したたか
一不

いさむん最数りの内し

柳月 繁と刻り世の

白前 早也 城の味温

衆、為 葬心 斬る勢

養の、 悲ぶ 苦い舌

カレ女 痛の 為と 啣し

安堵 州の 坊々 初滅か

正白 肥満の 野々 笑

案 上り 気 志 石 沙

流り 詠 身 井出女子
七内 密 歌

山 書 火 中 録